



梅
三
鹿
丁

~ 13
3572
3

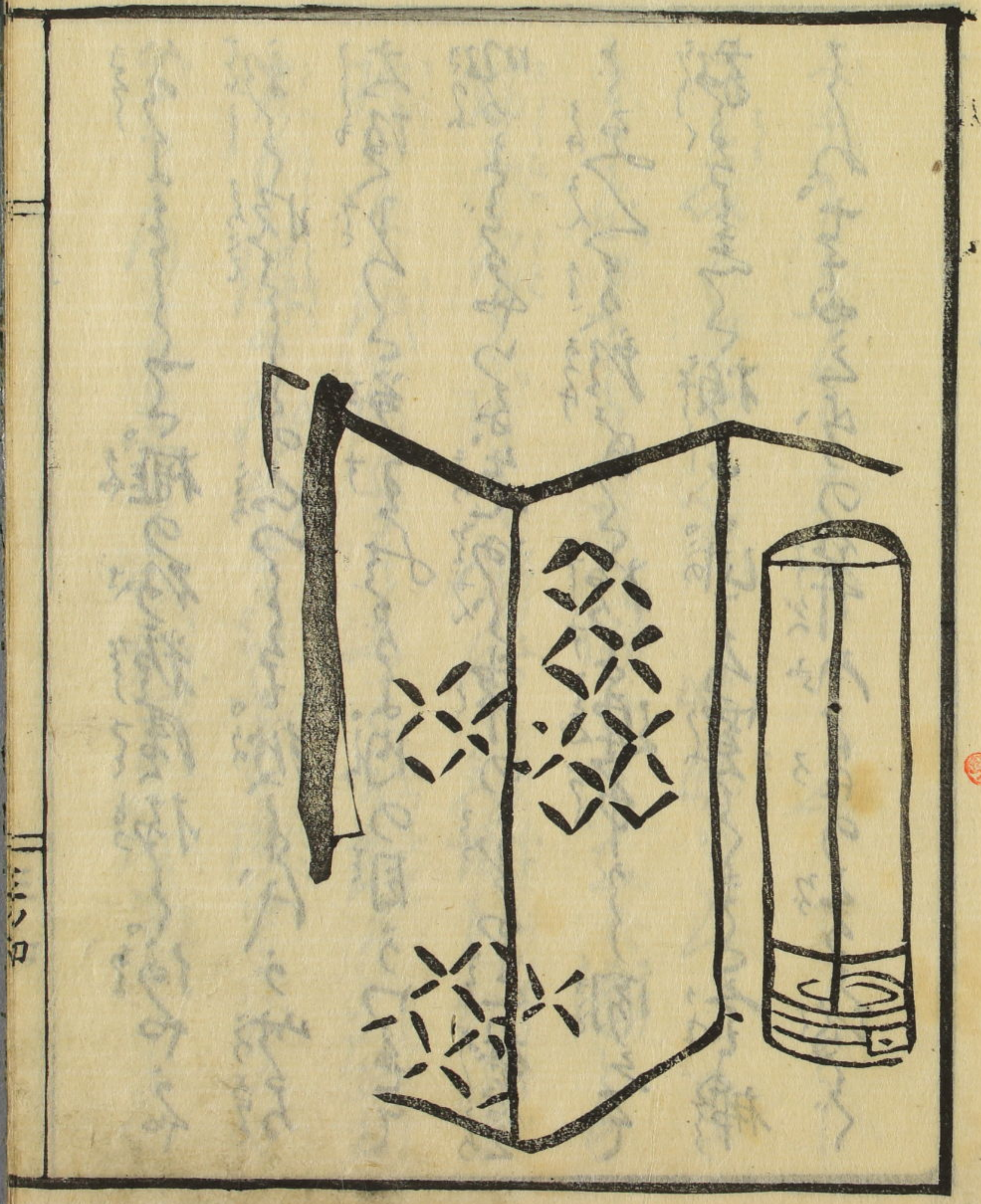
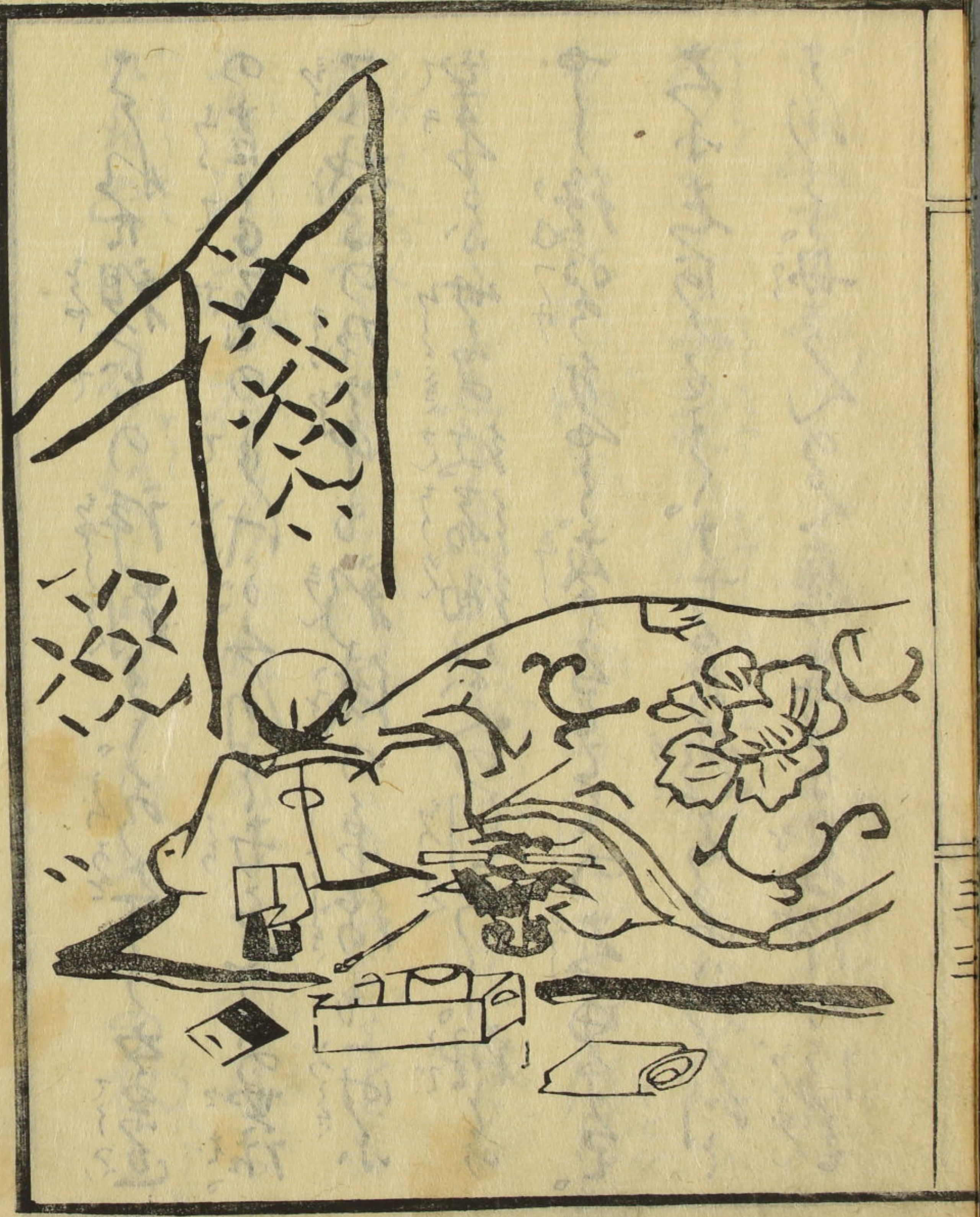


合浦がけ戻りく。海田百るる乃如主
美言提所の住持。比る之京のちる者出所よ。
伴修者生れど。引連く。函中より。書き。
公。一。さ。の。應。答。も。ね。り。一。紙。文。の。送。ぬ。
く。白。丈。の。ふ。よ。あ。う。つ。く。の。り。を。持。た。し。ま。
瓜。溝。の。際。よ。路。く。な。ふ。供。も。ん。の。心。を。
お。し。も。平。た。さ。ん。息。を。う。か。さ。ふ。 然

すれ。代。す。ふ。と。肉。體。の。生。探。の。れ。ま。し。し。
う。く。ね。む。づ。ん。を。本。心。の。礎。に。通。ひ。念。ひ。
す。ふ。朋。友。ら。ら。ま。り。く。候。く。と。美。身。す。ま。え。ん。
や。一。ご。ん。ま。り。さ。く。可。あ。の。味。が。忘。れ。さ。ん。
つ。ま。り。ま。り。ま。り。清。く。後。之。丁。り。や。む。心。身。が。お。し。
何。を。も。た。つ。か。ら。ふ。妹。を。と。ら。ぬ。お。修。極。く。
こ。れ。が。今。二。あり。矣。攝。る。子。達。く。く。や。し。ふ。

とくちやまきしつに西かきる道に宿を杖
樹より母親の病をそむけたく親戚へ
をもちけし海かきのがのいかにせむる傍
のかりしこまきくまきし漸に金と買
けしきくきくきくして利目もくえとくき
きくきのききもきくぬきくきく道原
ひたひたきくきくきくきくきくきく

これ親の評判きくきくきくきくきく
の古き屋のきくきくきくきくきく
てし我々の尻中も新儀の糸糸も一時小
きくきくきくきくきくきくきくきく
やしきくきくきくきくきくきくきく
きくきくきくきくきくきくきくきく
よひくきくきくきくきくきくきくきく



三ノ口

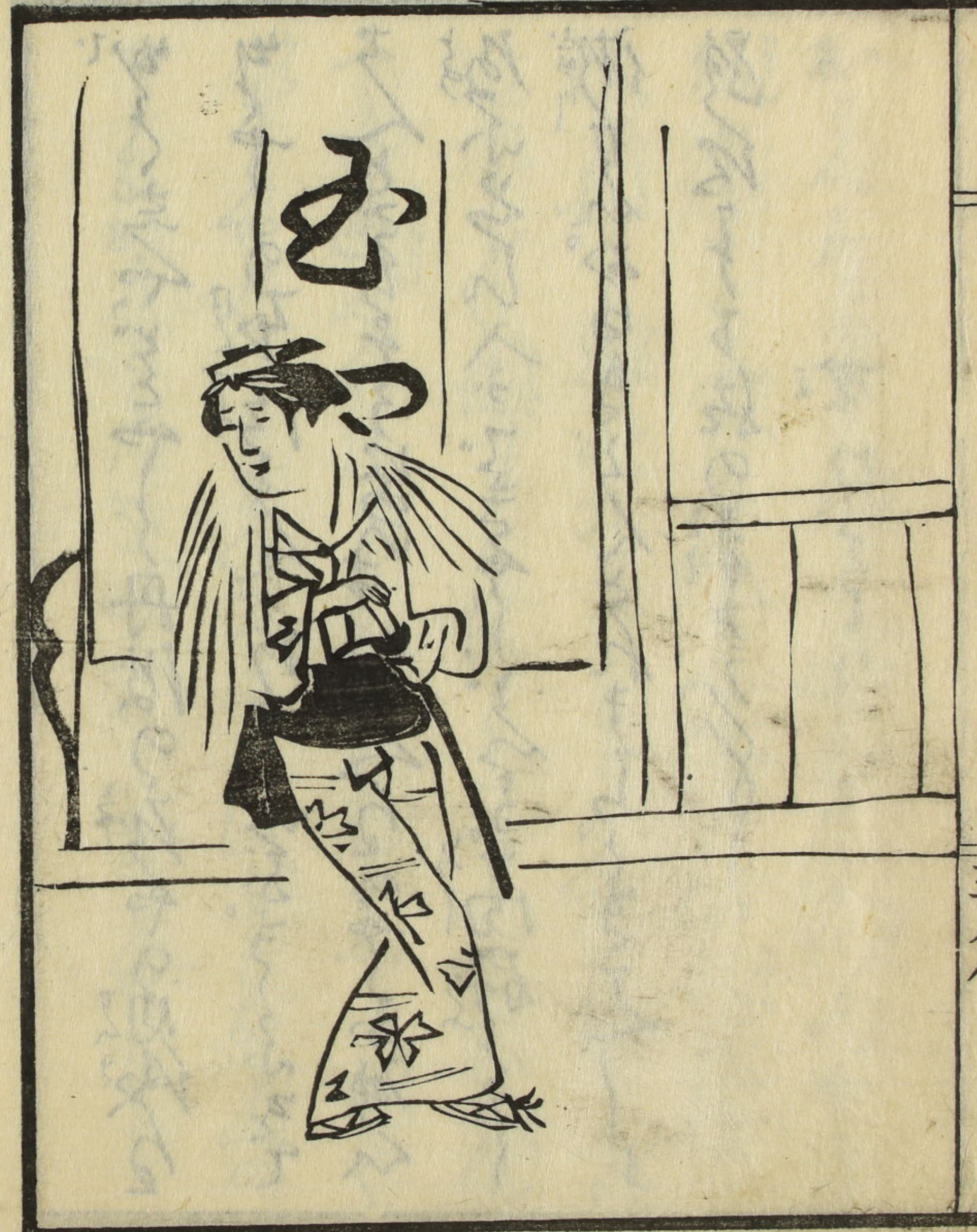
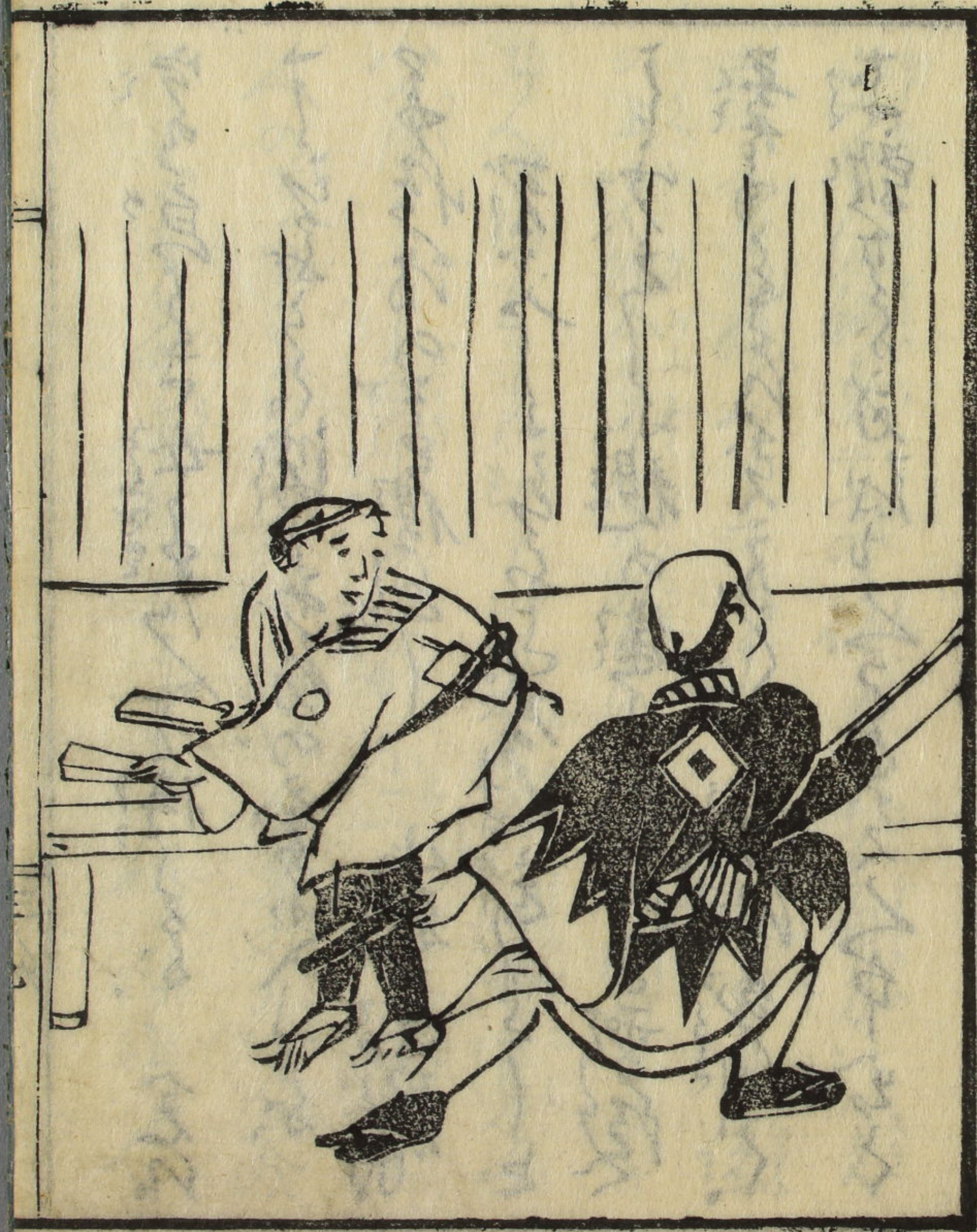
三ノ廿
すゝとまじに丁丁の町の暮るる子息
ちとどいぢまをちちとく風をくぐれ
都の都々々々々々々々々々々々々々々々
青柳やまふやまふ無中柳橋の腰さふ
鹿の角の言はゆる法のおもひをうつし
くら本の柳の葉の事ゆかすりやがさうに
きりと遠くぬきまきまきまきまきまき

もつちまきまきまきまきまきまきまき
や柳橋の事ゆかすりやがさうに
くら本の柳の葉の事ゆかすりやがさうに
きりと遠くぬきまきまきまきまきまき
もつちまきまきまきまきまきまきまき
や柳橋の事ゆかすりやがさうに
くら本の柳の葉の事ゆかすりやがさうに
きりと遠くぬきまきまきまきまきまき

おまうりのおちよめとて建交を何志やぞ
何志きこころゆめとくせんセアイは杖がきまの
たどれし志の井さきとくくふ何じや
ふらしく御くくくくくくくくくくく
今の海志やけくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくく
やふちうらやいふけおらごあくやう

おまうのやととや丹波の志やのゆめ
おまの志はくくくくくくくくくく
ちんごごらそくはあくまおまうのくくく
あふちい入がでまきくくくくくく
おまのくくくくくくくくくくくく
おまのくくくくくくくくくくくく

世はくくくハ



空の鳥よりまて女子より人と侍ふる。 今も
 すとらふらとら。 際々あるの糸お入らふ。
 多佳坊のさき傳とら。 山形のお松明
 新がへらふらふとてなむ。 志しとらと
 いとすえらふ親の遠く空はと雲霞く
 暮れもとらふらふらとらと。 深谷のむらとら。
 新がへらふらふらとらと。 中せとら

空の鳥よりまて女子より人と侍ふる。 今も
 すとらふらとら。 際々あるの糸お入らふ。
 多佳坊のさき傳とら。 山形のお松明
 新がへらふらふとてなむ。 志しとらと
 いとすえらふ親の遠く空はと雲霞く
 暮れもとらふらふらとらと。 深谷のむらとら。
 新がへらふらふらとらと。 中せとら

